とやま

1999
3
No.362

県広報とやま
富山県

特集／富山のくすり ルネッサンス

いま東京では富山のくすりが大人気（東京・新宿のキョクトウ本舗にて）

とやま遊学感

埋没林と蜃気楼 ふたつの神秘に出会える。

【魚津埋没林博物館】

外観は発掘された樹根と魚津の“たてもん”をイメージしています

巨大な樹根に触ってみてください（乾燥展示館）

発掘現場が再現されたドーム館

ハイビジョンホールで蜃気楼の映像をお楽しみください

神秘的な雰囲気の水中展示館

レポーター
高田 貞美（たかだ さだみ）さん
（埋没林博物館職員）

魚津埋没林（まいぼつりん）博物館は、魚津で発見された埋没林を保存展示する博物館。毎年十万人の入館者があり、ユニークな観光スポットとしてすっかり定着しています。

埋没林とは、土の中に長い間埋まっていた林のこと。縄文時代、このあたりには巨大な杉の木が繁り、ちょうど入善町にある沢スギのような雰囲気でした。約二千年前、気候の温暖化による海面上昇とともに地下水位が上昇、林は湿地に変わり、杉は枯れてしまいましたが、その樹根は、泥炭層（でいたんそう）と片貝川（かたかいがわ）からの冷たい地下水によって保存されてきたのです。

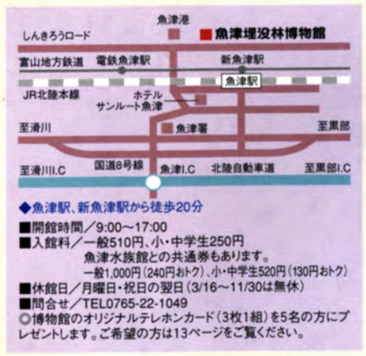
〈乾燥展示館〉には昭和五年にはじめて発見された樹根が展示され、実際に手で触ることもできます。

隣の〈水中展示館〉では、発掘現場をそのままコンクリートで囲んだ巨大な水槽に地下水を汲み上げて樹根を水中展示しています。地下の窓から中をのぞいてみてください。青みがかった水の中に巨大な樹根が静かに横たわり、まるで二千年の時空を超えて古代のロマンを語りかけてくるようです。

また、平成元年に発掘された樹根を展示する〈ドーム館〉は、三メートルほど掘り下げたところに樹根が点在し、発掘現場の雰囲気を再現しています。

さて、魚津といえば、もうひとつ忘れてはならないのが蜃気楼（しんきろう）です。四月から六月にかけては蜃気楼が現れやすいシーズン。ドーム館そばの〈蜃気楼の丘〉からも幻想的なドラマが楽しめます。残念ながら蜃気楼が現れなかった時は〈テーマ館〉二階のハイビジョンホールへ。三百インチの大画面で「蜃気楼―大自然のシンフォニー」と題したハイビジョン映像をご覧いただけます。

あなたもぜひ魚津埋没林博物館へ遊びに来てください。埋没林と蜃気楼という富山湾を代表する二つの神秘に出会えますよ。



◆魚津駅、新魚津駅から徒歩20分
■開館時間／9:00～17:00
■入館料／一般510円、小・中学生250円
魚津水族館との共通券もあります。
一般1,000円（240円おトク）、小・中学生520円（130円おトク）
■休館日／月曜日・祝日の翌日（3/16～11/30は無休）
■問合せ／TEL0765-22-1049
◎博物館のオリジナルテレホンカード（3枚1組）を5名の方にプレゼントします。ご希望の方は13ページをご覧ください。

ひと アズ とやま INTERVIEW

第二回ロボットグランプリ からくりマシン競技で準優勝
西嶋（にしじま） 宏晃（ひろあき） 君（写真右）
北森（きたもり） 信勝（のぶかつ） 君（写真左）

アイディアを形に

「うれしかった。まさかと思いました」と口をそろえるのは、不二越工業高校二年の北森信勝君と西嶋宏晃君。二人は、一月に横浜市で開催された第二回ロボットグランプリのからくりマシン競技で、みごと準優勝に輝きました。この大会は、プロのエンジニアも参加するレベルの高いもので、からくりマシン競技は、重りやバネの力で動かす「からくり」の面白さと独創性がポイントです。

二人が製作した「花さかじいさんマシン」は、ウサギが水を撒いて花を咲かせる情景を演出したもの。Z型の透明パイプから二百二十個のビー玉を次々と落とし、発電機の羽根車を回して起した「電力」と、ビー玉の重さを利用した「てこの力」で、からくりを動かします。

このマシンが独創的なのは、からくりを動かす重りとしてビー玉を使用したこと。参加者の多くが大きな重りを使用した中で、二人はあえて小さなビー玉をたくさん使うことで、からくりの動きを安定させました。審査員も「発想の転換が素晴らしい」と絶賛しています。

しかし、実際の製作過程では苦労の連続でした。「図面上は問題が無くても、強度不足だったり、うまく加工できなかったり。冬休み返上で取り組みましたが、完成したのは締め切りの前日だったんですよ」と振り返ります。

また、製作中の二人の性格は対照的。「これでいいのかと悩んでしまう」北森君に対して、西嶋君は「早く動かしたいから迷うことなく組み立てる」タイプです。でも、ロボットづくりに寄せる情熱はどちらも同じ、互いを「頼れる相棒」と認め合っています。

花さかじいさんマシン

そんな二人の今年の目標は、秋に開かれる高校生ロボットコンテスト。対戦形式で行われるこの大会では、面白さや独創性よりも、相手を倒して勝利するための技術が求められます。昨年は残念ながら県大会で予選落ちしていますが、今回のからくりマシン競技での準優勝は二人に大きな自信を与えてくれました。

「今年は高校生ロボットコンテストでも活躍してみせます」。今から意気込みも十分です。

CONTENTS

とやま遊学感 1 魚津埋没林博物館
ひとアズとやま 2 北森信勝君、西嶋宏晃君
特集 3 富山のくすり ルネッサンス
ピンナップとやま 7 写真●前佛 勇（富山県写真家協会会員） 詩●萩原 充（富山県現代詩人会会員）
クローズアップ 9 心の教室相談員
トピックス 11
健康ひとくちメモ 13 正しい食生活
県の施設の催しガイド 14

表紙撮影●赤羽仁諭（富山県写真家協会会員）

特集

富山のくすり ルネッサンス

最近、東京の若い女性の間では、富山のくすりが大人気。バッグや小物入れに忍ばせるのがひとつのファッションにまでなっています。今月の特集は、このような富山のくすりをめぐる新しい動きや、配置薬業を応援する県の取り組みについてご紹介します。

富山のくすり 東京でブレイク！

東京・新宿駅に隣接するファッションビル、「小田急新宿ミロード」。その六階に昨年、富山のくすりを扱うレトロな薬局「キョクトウ本舗」がオープンしました。店内には、ダルマが描かれた風邪薬や、男性が苦しそうに腹を押さえる腹痛薬、女性がこめかみを押さえる頭痛薬など約三百五十種類の配置薬がズラリと並んでいます。

客層の中心は女子高生やＯＬ。いままで富山のくすりのことを全く知らなかったという人がほとんどですが、配置薬に目を輝かせ「かっわいい♡」「おっしゃれ～」を連発。一袋三百円程度のくすりを三つ、四つと買い求めていきます。なんでも、「学校や職場で見せびらかすと人気者になれる」のだとか。

若い女性でにぎわう店内

取材日(二月上旬)の売上げベスト５はコレだ！

1 だるまハイトン（かぜ薬）

2 ケロリン（鎮痛薬）

3 散剤せきどめ

4 アスナオール（解熱鎮痛剤）

5 強力はら専門（腹痛薬）

レトロな感性が人気を呼ぶ

人気の理由は、レトロなパッケージ。配置薬のパッケージデザインは誤飲を防止する理由もあって、昔からほとんど変わっていません。そんな昔懐かしいデザインが、レトロブームに乗って若い人にウケているのです。

もうひとつの理由は、配置薬の商品名。「ケロリン」、「セキトマル」、「アスナオール」など、ダジャレっぽいネーミングが「ちょー新しい！」のだそうです。

アンテナショップの役割も

キョクトウ本舗を運営しているのは東京の広告会社「ゼント」。同社は以前、富山市の製薬会社キョクトウ（株）の商品開発に参加したことがあり、その際はじめて配置薬のレトロなパッケージに出会いました。

「きっと都会の若者にもウケると思った」と同社で企画を担当する西村理英さんはその時の興奮を語ります。

現在、商品の供給は、キョクトウ（株）が窓口となって行っており、県内約十五社の配置薬を販売。富山のくすりのアンテナショップとしての役割も果たしています。

土曜や日曜になると、店内は足の踏み場がないほどの盛況ぶり。東京での反響を受けて、一月には大阪、二月には名古屋にも同様の店舗がオープンしました。

また、昨年末には配置薬を写真フレームに使ったプリントシールも登場し、富山のくすりブームは、全国に波及する動きを見せています。

伝統が息づく富山のくすり

富山の配置薬業の起源は、ＮＨＫ大河ドラマ「元禄繚乱」の舞台である江戸時代元禄期。薬を前もって預け、代金は後日支払ってもらう「先用後利」の商法で全国に広がり、以来三百年あまりにわたって人々の健康を支えてきました。

また、明治以降の近代化の中で、配置薬業によって蓄積された産業資本は、金融、電力、鉄道、印刷

店内には、富山のくすりがズラリ

など幅広い分野に活かされ、富山県の発展に大きく貢献しました。

近代化に取り組む富山のくすり

そんな「富山のくすり」も、現在は多くの課題を抱えています。大きく分類すると、第一に**配置薬製造業の効率性**の問題、第二に**配置販売員の後継者不足**の問題。また、配置販売員の顧客台帳ともいえる**懸場帳の県外流出**も頭の痛い問題です。

県では、このような課題に対応するため、平成八年に「富山県配置薬業近代化促進プラン」を策定し、配置薬の「製造」「販売」両面からの近代化に取り組んでいます。

配置薬製造業の効率化

県内には配置薬メーカーが約六十社ありますが、その半数以上は従業員二十人以下の小規模経営。また、配置薬の性格から、ひとつのメーカーで数十～数百種類の薬を少量ずつ生産する「多品種少量生産」となっています。

このような不効率生産はコストを高め、経営環境を厳しいものにする原因となります。

このような課題を解決するため、県では次のような施策を進めています。

資金面で企業を応援

配置薬メーカーを対象に、運転資金や設備投資のための資金を貸し付けたり、設備投資のために銀行等から借り入れた資金について利子補給（利子を負担してあげること）を行っています。これらは、投資負担を軽くする効果があり、配置薬メーカーの設備の近代化と経営の効率化に役立っています。

合併や共同化を推進

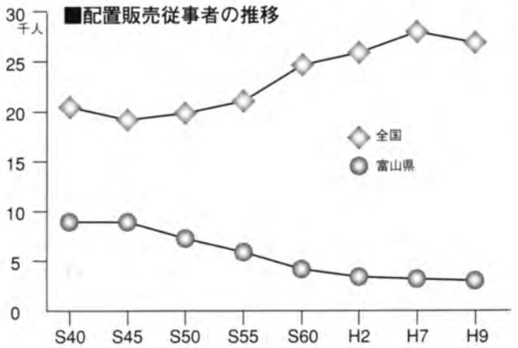
合併や共同出資会社の設立を通じて企業規模の拡大、生産性の向上を図ろうとする配置薬メーカーに対して助成する制度を設けています。これらは、配置薬メーカーの企業規模の適正化と競争力向上につながります。

配置販売業の共同化と販売員の確保

富山県の配置販売員は、現在約二八〇〇人。これは、最も多かった昭和三十六年の約四分の一の水準で、いまでも毎年一〇〇～一五〇人のペースで減少が続いています。また平均年齢が六十一歳と高齢化も進み、後継者不足が問題になっています。

このような問題を解決するためには、配置販売の仕事が若い人にとって魅力あるものにするとともに、この仕事に就こうとする人を応援していく必要があります。

このため県では、次のような施策を進めています。



配置販売の共同化

電子懸場帳システムを導入する配置販売業者のグループに助成しています。

電子懸場帳とは、常時携帯可能な小型パソコンを利用した「現代版懸場帳」で、従来の懸場帳が持っている顧客台帳としての役割に加え、売上げや仕入れの管理などを一括処理することができます。これによってメーカーからの共同購入が容易になり、仕入れ価格を安くすることもできます。さらに、従来の懸場帳と違って、記載方法が統一されるので、将来、販売員が廃業して懸場帳を手放す場合でも、これを引き継いだ販売員にきちんと情報を伝えることができます。

電子懸場帳

薬業研修センター

配置販売の仕事に就こうとする人たちのために、薬業研修センターを設置し、無料で配置販売のための研修を行っています。

懸場帳の県外流出の防止

配置販売員が引退する時、懸場帳は同業者に買い取られ、得意先とともに引き継がれてきました。ところが最近、懸場帳が県外の大手業者に売られることが多くなっています。

懸場帳の流出は、県内の配置販売業の競争力低下など、重大な影響をもたらします。県では、富山県の貴重な財産ともいえる懸場帳の県外流出を防止するため、次のような施策を進めています。

購入資金の貸付

県内の配置販売業者が懸場帳を購入するのに必要な資金の貸付を行っています。この制度は、意欲のある県内の販売業者に事業拡大のチャンスを与え、懸場帳の県外流出防止に役立っています。

取引の円滑化

富山県薬業連合会が設置した「懸場帳取引相談センター」の事業に助成しています。同センターは、県内の販売業者間の懸場帳取引を斡旋するもので、懸場帳の県外流出防止に役立っています。

全国へのPR

「富山のくすり」のイメージアップと販路拡大をめざす「富山くすりフェア」を市町村・業界と共同で開催しています。十年度は、富山市のほか、秋田市、松本市、日立市（茨城県）で開催。いずれの会場も大勢の人が訪れました。

懸場帳とは

懸場帳は、得意先に配置した薬の種類や数量、家族構成や持病、さらには近所の地理などの情報が書き入れられた、いわば売薬の顧客名簿です。懸場帳を取得することは、得意先を引き継ぐことにもなることから価値が高く、一千万円前後で取り引きされます。

富山のくすりの未来を支えるのは若い力

川口 勝彦さん

「配置販売は魅力のある仕事。若い人にも、どんどんこの仕事に就いてもらいたい」と語るのは、富山県配置薬業青年連合会会長の川口勝彦さん。

全国的には、配置販売員は増えており、若い人の新規就業も少なくありません。しかし富山県内では、いまも減少が続き、若い人の新規就業も少ないのが現状です。川口さんは、その原因の一つに配置薬に対する県民の固定観念があると考えています。

「いまでも柳行季に大風呂敷、紺の股引に脚絆姿という薬売りのイメージが強いんです。実際には、スーツ姿で自動車を運転しながらの仕事なんですが・・・」。

最近の「富山のくすり」ブームがきっかけで、配置販売員を希望する若い人が増えてほしいと川口さんは願っています。

「配置販売は比較的不況に強く、やればやるだけ収入が増える仕事です。若い人には、固定観念にとらわれずに、ぜひチャレンジしてほしい。富山の配置薬業の未来は、若い人たちの意欲にかかっています」。

最初に紹介した東京での人気に見られるように、いま、富山のくすりは、新しい感覚で人々の生活に身近なものになろうとしています。県では、これからも、近代化に向けた配置薬業関係者の取り組みを応援していきます。

問合せ・ご意見は県庁薬業振興課まで
☎0764-44-3236

ご存知ですか！
県内にも気軽に「富山のくすり」が買えるところがあるんです。

いきいきKAN「富山のくすり」コーナー
場所／富山駅前CIC５階
営業時間／10:00～20:00（火曜定休）

PIN UP ピンナップとやま TOYAMA

撮影／前佛　勇　詩／萩原　充

写真プレゼントについては13ページ参照

「春の予感」

目覚めの時

凍てついた私の胸に

差し込んだ光りのしずく

かたくなな心の窓を

そっと

そっとおし拡げてゆく

やわらかな光りのしずく

新しい季節の血潮が

白い激流となって海に向かう

その際で

そっと

そっと芽吹きはじめた

新しい生命の

目覚めの時

クローズアップ

中学生を温かく見守る

――心の教室相談員――

生徒からの相談に笑顔で応じる杉林さん（大沢野中学校の相談室で）

二十一世紀を担う青少年の健全な成長は、みんなの願い。しかし現実は、いじめや非行、ナイフによる殺傷事件など中学生の問題行動が社会問題化しています。そして、その原因として指摘されているのが中学生のストレスです。県では、中学生が気軽に悩みや不安を相談してストレスを和らげることができるようにするため、昨年十月から県内の中学校に「心の教室相談員」を配置しています。

誰もが気軽に訪れる相談室

大沢野町立大沢野中学校の「心の教室相談員」杉林幸子さんは、週四日間、生徒たちの相談に応じています。明るくて気さくな杉林さんは人気抜群、午後の相談時間になると相談室には生徒たちが次々と訪れます。

心がけているのは相談室らしくない雰囲気づくり。前もって連絡しなくても、いつでも訪れることができます。

「生徒たちがホッと息抜きできるオアシス」をめざす相談室の本棚には、マンガをはじめ生徒が興味を持ちそうな本が並んでいます。これが目当てで訪れる生徒も多いとか。

「悩みがある生徒も、そうでない生徒も、誰もが気軽に訪れることができるように気を配っています。そうすれば、相談室に行ったことを理由にイジメられたりすることもないでしょ」。

それでも、相談室に行くことができずに一人で悩んでいる生徒もいるかも知れない。そこで杉林さんは廊下を歩きながら生徒に声をかけたり、生徒が集まりそうな場所に出かけて一緒に活動したりしています。

いちばん話しやすい存在

相談内容で多いのは、先生のことや友人関係。「思春期を迎えた中学生はさまざまな悩みを抱えています。一見うまくいっているように見える友人関係も、実際は一方が相手に合わせていて、そのことに疲れているというケースが多いんですよ」。

杉林さんは、生徒の言い分に否定も肯定もしません。「まず話を聞いてあげることが大切。それだけでストレスが解消するケースも多いんです」。その上で必要ならば、人生の先輩として選択肢を示し、あとは生徒に考えさせるようにしています。

「話しやすい近所のおばちゃんのような存在でありたい」。実際、生徒たちからは「先生や親には話しにくいことでも、杉林さんになら気軽に話せる」という声が多く聞かれます。

気軽に訪れることができるよう相談室の本棚にはマンガの本も並んでいます。

家庭や地域も一緒になった取組みが大切

杉林さんは、大沢野中学校の元PTA役員。この中学校では三年ほど前に一時期荒れたことがあり、当時PTA副会長だった杉林さんは、この問題の解決に取り組みました。「先生や保護者と日付が変わるまで対策を話し合ったこともあります」。

そんな中、感じたのは、学校だけでなく、保護者や地域も一緒になって子どもたちのことを考え、取り組んでいくことの大切さでした。

「親はもっと子どもと会話すべきです。子どもにとって一番大切なのは親であり家庭なのですから」「地域の人々も、タバコを吸ったり、恐喝したりしている子どもを見かけたら、勇気を出して注意してほしい」。

杉林さん自身も、買い物に出かけると、店の裏手などで恐喝されたりしている子どもがいないか注意しています。

生徒たちに気軽に声をかける杉林さん。笑顔の輪が広がります。

話しをすれば必ず解決につながる

最近、感じているのは、「保護者も、子どもにどう注意していいかわからずに悩んでいる」ということ。それも問題のある生徒の親に限って、誰にも相談できず、ひとりで悩んでいることが多いといいます。そこで杉林さんは、ときには保護者からの相談にも応じています。「話しさえすれば必ず前進すると思います。少なくとも、ひとりで悩むよりはマシなはず」。

大変そうに思える「心の教室相談員」の仕事ですが、そんなことはないと明るく笑います。

「私は楽観的な性格、物事を難しく考えないようにしています。この仕事も楽しみながらやってるんですよ」。

「家庭や地域の役割も大切」と語る杉林さん

「心の教室相談員」制度は、地域と学校が一体となって子どもたちのことを考えていく事業です。

県では、研修会を開いたり、情報交換の場を用意するなどして、相談員の活躍を応援していくことにしています。

問合せ・ご意見は、
県教育委員会指導課まで
☎0764-44-3452

「心の教室相談員」事業の概要

配　置　校
県内六十六の中学校に配置
（スクールカウンセラーがいる中学校と、全校で三学級以下の小規模校を除くすべての中学校）

相　談　時　間
週四日（一日当たり半日程度）

選　任　方　法
教職経験者、青少年指導者、保母、会社役員など地域の人材の中から各中学校の実情にあわせて人選し、市町村の教育委員会が委嘱

職務の内容
①生徒の悩み相談
②学校と地域との連携
③その他、教育活動の支援

介護を支える新しいマンパワー誕生 2/4

修了証明書を受け取る介護支援専門員

■平成十二年四月からスタートする介護保険制度の円滑な導入に向け、県ではさまざまな準備に取り組んでいます。

■その一環として、養成が進められている「介護支援専門員」の第一期実務研修がこのほど終了し、二月四日、一〇六人に修了証明書が渡されました。

■介護支援専門員は、要介護認定された高齢者やその家族から依頼を受け、一人ひとりに合った介護サービス計画（ケアプラン）を作成するほか、介護施設や在宅サービス事業者との連絡調整を行うなど、重要な役割を担います。

■この研修は、昨年九月の受講試験の合格者を対象に実施されたもので、受講者は、適切で効果的なサービスを提供できるよう、ケアプランの作成方法や訪問調査の手法などを学びました。

■今後も順次、研修が行われ、三月末までに約六〇〇人の介護支援専門員が誕生することになっています。

■また県では、保健婦、看護婦、ホームヘルパーなど質の高い人材の計画的な養成・確保、在宅サービスや施設サービスの基盤整備などに引き続き努め、介護サービスが効率的に行われるよう取り組んでいきます。

環境と調和した社会づくりを考える 2/9

■資源の有限性を認識して、環境と調和した社会づくりを進めようという「省資源・省エネルギー運動富山県民大会」が二月九日、開催されました。

■大会では、省資源・省エネルギー推進優良団体の表彰に引き続いて、京都市のNGO団体「環境市民」チーフコーディネーターの杣本育生（すぎもといく）氏が「買い物を変える。環境が変わる。」と題して講演。量り売りや、ばら売りなど、ゴミを少なくする買い方を紹介しながら、日常的な行動を通して環境問題に取り組んでいくグリーンコンシューマー（環境を考えた消費者）活動の必要性を訴えました。

■また、県立上市高校の生徒達が環境に優しい植物“ケナフ”について発表。ケナフは約半年で高さ三～四メートルにもなるなど成長が早く、木材繊維に代わる非木材資源として近年注目を集めています。また光合成が活発で二酸化炭素をよく吸収することから、地球温暖化防止にもつながると期待されています。生徒達は、紙の原料、建材、食用など、さまざまな利用ができるケナフの栽培、加工法について詳しく紹介しました。

■参加した約二百五十人は、熱のこもった講演や研究報告に興味深く耳を傾けていました。

環境にやさしい買い物を訴える杣本育生さん

国体ニュース

富山らしいメニューを試食 1/26

■2000年とやま国体の標準献立案の試食会が、一月二十六日、富山市内のホテル・旅館の代表、民泊（みんぱく）関係者など約百八十名が試食しました。

■標準献立とは、国体の宿泊施設や民泊家庭などで提供される食事や、競技会場での弁当の標準的なメニューのこと。選手が最高の状態で大会に臨めるよう、栄養面や衛生面に配慮して作成されています。

■試食会には、冬季大会用と夏・秋季大会用あわせて三十食分が用意され、このうち四十五品が試食されました。メニューの多くは、昨年秋に開催された食祭とやま'98の成果も踏まえて郷土色豊かなものになっており、富山牛の照焼きやブリ大根、シロエビのかき揚げ、薬膳えびピラフなど、富山らしい食材が使用されています。

■試食後のアンケートでは、「食欲がわき、パワーがでるメニューだ」など、概ね好評でしたが、2000年国体富山県実行委員会では、今回出された意見を踏まえ、三月頃までに標準献立を決定したうえで、関係者を対象にした講習会を順次実施することにしています。

選手たちも標準献立を試食

立山カルデラ砂防博物館企画展 3/2～

「あれから三十年 ―常願寺川昭和四十四年災害―」

立山カルデラ砂防博物館では、歴史に残る大災害となった「常願寺川昭和四十四年災害」と、県民の生活を災害から守るために実施している治水事業をテーマにした企画展を開催します。

日時
3月2日(火)～5月9日(日)
午前9時30分～午後5時

入場無料

テーマ1 歴史に残る大災害

■昭和四十四年八月八日から十二日にかけて、富山県内は一時間当たり最大雨量九二ミリ、累計七七三ミリという驚異的な集中豪雨に見舞われました。このため、常願寺川をはじめ、黒部川、片貝川、早月川などが氾濫、大災害となりました。

濁流に押し流されそうな鉄橋（大山町上滝）

昭和四十四年災害

■今回の企画展では、貴重な映像資料などを交えて災害を振り返るとともに、集中豪雨が土砂災害をもたらすメカニズムをご紹介します。

テーマ2 災害を防ぐ治水対策

■県では、河川改修や砂防事業など、さまざまな治水事業を行っています。

■この結果、昨年（平成十年）の夏、県内を繰り返し襲った豪雨が昭和四十四年に近い規模であったにもかかわらず、被害は大幅に減少しました。

■今回の企画展では、普段忘れられがちな治水事業が、水害や土砂災害を防止・軽減している様子をご紹介します。

■また、集中豪雨を察知するための気象情報収集システムや映像による現場監視システムなど最新の防災システムも展示します。

●立山カルデラにおける砂防事業の進歩状況●

		昭和44年豪雨	平成10年豪雨
整備状況	砂防ダム	41基	102基
	床固（とこがため）	3基	69基

●被害状況の比較●

		昭和44年豪雨	平成10年豪雨
人的被害	死者	5人	0人
	負傷	15人	0人
	行方不明	1人	0人
家屋の被害	全壊	50戸	0戸
	半壊	92戸	0戸
	一部破損	121戸	0戸
	床上浸水	2,132戸	173戸
	床下浸水	7,470戸	2,459戸

特別講演会も開催します。

演題／「自然とつきあう」
日時／3月20日（土）
午後2時～3時30分
場所／立山カルデラ砂防博物館
大型映像ホール
講師／伊藤和明氏
（立山カルデラ砂防博物館名誉館長、NHK解説委員）

問合せ・ご意見は、立山カルデラ砂防博物館まで
☎0764-81-1160

県の施設の催しガイド

施設名	開館時間・休館日・入館料	企画展等のお知らせ
近代美術館 ☎0764(21)7111 富山市西中野町1-16-12	9:30～17:00 ㊡月曜・祝日の翌日(3/22は開館、23は休館) 一般 200円　高・大160円　小・中100円	**東アジア友好美術展** 2/26(金)～5/9(日) 中国遼寧省・ロシア沿海地方・韓国江原道・富山県 一般 750円　高・大 500円　小・中300円 **美術講座「ミュージアム・アトリエ」** 3/6(土)、7(日)14:00～　1階ホール 講師　坪内祝義氏(グラフィックデザイナー) 事前申し込みが必要
立山博物館 ☎0764(81)1216 立山町芦峅寺93-1	9:30～17:00 ㊡月曜・祝日の翌日(3/22は開館、23は休館) 4/5～4/9はくん蒸処理のため臨時休館 一般　高・大　小・中 展示館(常設展示)　300円　240円　150円 遙望館(映像ホール)　100円　80円　50円 まんだら遊苑は、3月末まで休苑です。	**チベットマンダラ恒例展** 立山博物館が収集してきたチベットマンダラを2回に分けて公開します。 前期3/14(日)まで 後期3/16(火)～3/31(水) 会場 立山博物館 展示館企画展示室 ※入場無料
立山カルデラ砂防博物館 ☎0764(81)1160 富山地方鉄道立山駅前	9:30～17:00 ㊡月曜・祝日の翌日(3/22は開館、23は休館) 一般 400円　高・大 320円　小・中 200円	**企画展「あれから30年―常願寺川昭和44年災害」** 3/2(火)～5/9(日) →詳しくは12ページをご覧ください。
中央植物園 ☎0764(66)4187 婦中町上轡田(くびだ)42	9:00～17:00 ㊡木曜・祝日の翌日(3/22は開園、23は休園) 一般 600円　小・中 300円	**日曜植物案内** 3/7(日)ランのいろいろ　4/4(日)高山植物 いずれも11:00～12:00 **企画展示「私の植物画展」** 3/5(金)～3/28(日)
こどもみらい館 ☎0766(56)9000 小杉町黒河(太閤山ランド内)	9:30～17:00 ㊡火曜・第4水曜・祝日の翌日 (3/22は開館、23は休館) 入館無料	**おりがみが創りだす不思議な世界展** 3/14(日)まで **人形劇フェスタ** 3/7(日)13:30～　おむすびころりん他 **こどもサイエンスミュージアム** 3/6(土)～4/4(日) ※12月～3月は太閤山ランドの駐車場が無料です。 また日・祝日と第2・第4土曜日は園内無料バスも運行されます。
公文書館 ☎0764(34)4050 富山市茶屋町33-2	9:00～17:00 ㊡土曜・日曜・祝日 入館無料	**常設展示「富山県の誕生と県政の動き」** 富山県の誕生の経緯や明治・大正期を中心とした県政の動きを展示します。
埋蔵文化財センター ☎0764(34)2814 富山市茶屋町206-3	9:00～17:00 ㊡土曜・日曜・祝日 入館無料	**企画展「高速道路の下に眠る遺跡」** 9/29(水)まで 高速道路建設に伴う発掘調査の成果を紹介します。
情報工房 ☎0764(44)7887 富山市高田527(情報ビル1階)	9:30～17:00 ㊡月曜・祝日の翌日(3/22は開館、23は休館) 入館無料	**春の情報工房フェア** 3/13(土)、14(日) 最新のデジカメの展示、パソコンお楽しみ教室 シンセサイザーとCG、語りを交えた「民話ライブ」など ※パソコンお楽しみ教室は事前申込みが必要
帆船海王丸 ☎0766(82)5181 新湊市海王町(海王丸パーク内)	9:30～17:00 ㊡月曜・祝日の翌日(3/22は開館、23は休館) 一般 400円　小・中 200円	**縦帆(じゅうはん)ミニ展帆(てんぱん)** 3/21(祝) 3/1(月)～3/19(金)は、船体整備・点検のため乗船できません。
らいちょうバレースキー場 ☎0764(81)1633 大山町本宮字花切割	8:30～17:00 1日券(大人4,200円、小人2,700円) 半日券(大人3,000円、小人1,900円)ほか	**ひなまつりファン感謝デー** 3/3(水) 女性は、午後からゴンドラ・リフトが無料です。
県民小劇場オルビス ☎0764(45)4531 富山駅前マリエ7階	**オルビスと巡る「舞台芸術・芸能-発見ライブ」** **Vol.10 フラメンコっておもしろい！** 3/6(土)18:30～　出演/大川都(踊り)、鈴木英夫(ギター)、瀧本正信(唄・ギター) 3,000円(会員は無料です)	

富山県水墨美術館　4月29日オープン！

健康ひとくちメモ　正しい食生活

Q **生活習慣病の予防には食事が大切だと聞きますが、どのような点に注意すればよいのでしょうか。**

（30代女性、会社員）

A 偏りのある食事、食べ過ぎ、脂質や塩分のとり過ぎ、遅い夕食や夜食の摂取、朝食の欠食などは、生活習慣病の大きな要因。そこで、①バランスよく、②規則正しく、食事をとることが大切です。

①については、ご飯とおかずを組み合わせて一日に三十種類程度の食品を偏りなく適度にとるようにしましょう。よく、脂質のとり過ぎを気にして、肉を避けたり油を使わずに調理したりする人がいますが、健康な身体づくりには適量の肉や植物油が必要です。また、ご飯やパンなどは太るからと敬遠する人もいますが、むしろエネルギー源となる主食をしっかりとった方が腹持ちがよくなり、余分な間食や夜食をとらずにすみます。一般的にいうと、洋風料理よりも和食の方が、油が少なく、使用される食品の種類も多いので、バランスがとれた食事といえます。

②については、朝食を抜かないことはもちろん、夕食についても午後八時頃までには食べるようにしたいものです。仕事の都合などで、どうしても遅い夕食になってしまう場合は、夕食の量を少なくし、かわりに翌日の朝食をしっかりとるようにするとよいでしょう。

今年夏にオープンする国際健康プラザ(仮称)では、一人ひとりの状態に応じて、食生活を含めた生活習慣の改善メニューを提供し、健康づくりのお手伝いをすることにしています。

問合せ・ご意見は、国際健康プラザ建設室まで
☎0764-44-9657

編集部から

「県広報とやま」は原則として毎月1日に発行し、無料で配布しています。

主な配布箇所

県庁正面窓口、市町村役場窓口、県刊行物センター（県民会館1階）、県税事務所（富山、高岡、魚津、砺波）、消費生活センター（サンフォルテ1階）、公立図書館、高岡文化ホール、新川文化ホール、高岡テクノドーム、富山テクノホール、富山市民プラザ、富山市の各地区センター、いきいきKAN（富山駅前CIC5階）、高岡駅観光案内所、小杉駅（南口）・砺波駅・滑川駅の待合室、富山空港、東京事務所、大阪事務所、名古屋事務所

郵送による定期購読も受け付けています。
郵便番号、住所、氏名、電話番号、購読期間（○月号～○月号）を明記し、郵送料として1月あたり160円分の切手を同封のうえお申し込みください。
あて先／〒930－8501（住所記載不要）　富山県庁広報課

1ページで紹介した魚津埋没林博物館のオリジナルテレホンカードと、ピンナップとやま（7、8ページ）の写真をそれぞれ5名の方にプレゼントします。官製ハガキに、希望のプレゼント名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌の入手方法、本誌についての感想を記載して下記までお申し込みください。

●宛先／〒930-8501
富山県庁広報課
県広報とやま3月号プレゼント係
●締切／3月31日(当日消印有効)

1月号プレゼント当選者
■チューリップ花びら染めハンカチ
坂口ひとみさん（富山市）、片山春美さん（富山市）
寺井利之さん（高岡市）、上田澄美子さん（入善町）、井上栄子さん（婦中町）
■ピンナップとやま写真
渡辺秀一さん、青木由美子さん、福田眞智子さん（以上富山市）
西尾真理さん（砺波市）、本谷二三夫さん（城端町）

4月号は、各世帯配布版です、新聞折り込みにより各家庭にお届けします。

県広報とやま 平成11年3月

とやま
音のある風景
Vol.11

伝統が生み出すぬくもり

越中和紙の紙すき（八尾町）

おわら風の盆で知られる八尾町は、全国有数の和紙の産地でもある。

「八尾」という地名は「多くの尾根が集まる場所」を意味し、町の背後には幾筋もの尾根が飛越の山々へと連なっている。谷沿いに点在する村々では、ふるくから和紙すきを生業としてきた。

すき舟と呼ばれる水槽に楮の繊維とトロロアオイの根から抽出した粘液を入れてよく撹拌し、大きな簀桁で和紙をすく。最初は浅めに汲み込んで簀桁全体に繊維を行き渡らせ、続いてやや深く汲み込み、天井から吊った竹の弾力を利用しながら前後左右にバランスよく揺り動かす。「チャポン、バシャ、チャポチャポ」。すき舟の中で簀桁が躍動し、繊維が組み合わさって和紙の層が形づくられていく。

八尾の和紙は江戸時代、越中売薬とともに発展した。薬袋や包紙、懸場帳、おみやげの版画のほか、傘、かっぱ、提灯などの携行品に至るまで和紙はさまざまな形に姿を変え、売薬さんとともに全国を旅した。このため、すかれる紙の種類の多さが八尾の和紙の特徴である。

いまでも和紙工房には全国から若い職人が集まり、自分のアイデアを生かして製品を作り出していく。人形、カレンダー、ペンケースなどのほか、最近は部屋の壁紙など新たな製品開発も進んでいる。八尾の和紙は、長い伝統が生み出すぬくもりで、これからも人々に愛されていくことだろう。

※県では昨年、未来に伝えたい、残したい、県内五十箇所の「とやまの音風景」を認定しました。

企画発行 富山県企画部広報課 富山市新総曲輪1-7 ☎0764-31-3131(県民相談電話) FAX 0764-44-3300(県民相談ファックス) 富山県ホームページ http://www.pref.toyama.jp/